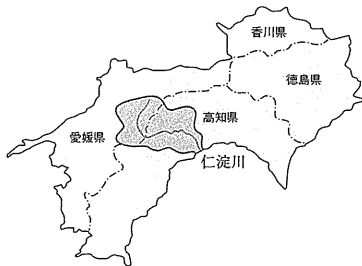




# 仁淀川

NIYODO GAWA

土佐之國繪圖／土佐之國資料類纂「皆山集」より



国土交通省四国地方整備局  
**高知河川国道事務所**  
 仁淀川出張所

〒780-8023高知県高知市六泉寺町96番地7  
 ☎(088)833-0111(代)  
<http://www.skr.mlit.go.jp/kochi/>

〒781-0301高知県高知市春野町弘岡上1992  
 ☎(088)894-2044

わくわくするね！高知の明日  
 ～自然と未来につながる輪をつくり～



# 仁淀川の概要

仁淀川は、四国山地の西部、西日本最高峰の石鎚山(1,982m)に源を発し、蛇行しながらほぼ南東に流れ、高知平野西部を貫流して土佐湾に注ぐ一級河川である。

その流れは面河溪、御三戸嶽の景勝地を経て大渡ダムに至り、安徳天皇御陵として伝えられる横倉山の山すそを流れ、土佐和紙の町いの町に至って平野部に出て、土佐市、高知市春野町の高東平野、吾南平野を貫流している。

仁淀川の名前の由来にはいくつもの説がある。この川の鮎を朝廷の賢殿に献上したので、賢殿川と呼ばれ、仁淀川になった説や、この川が淀川に似ているので似淀川となり、仁淀川となったという説。また、古代仁淀川は、大神に捧げる酒をこの川で醸造した事から「神河」と書いて「三輪川」と呼ばれいつしか仁淀川となったといわれる説など多様である。

仁淀川の改修は、昭和18年4月、同20年9月(枕崎台風)、同21年7月の一連の洪水を契機に、昭和21年度から高知県施工による中小河川改修事業がスタートし、昭和23年11月建設省直轄河川改修事業に採択となり、本格的改修が進められている。

当初計画における計画高水流量は、明治23年7月洪水を基礎として12,000m<sup>3</sup>/sと定められている。その後、計画流量を上回る13,500m<sup>3</sup>/sを記録した昭和38年8月の台風9号並びに、同40年の新河川法制定を機に、同41年に一級河川に指定され工事実施基本計画が策定された。同計画では、基本高水流量13,500m<sup>3</sup>/sとし、流量増分を上流大渡ダムで調節するものであった。

しかしながら、昭和50年8月洪水及び本流域の社会的、経済的発展にかんがみ平成元年3月、工事実施基本計画を全面改定し、基本高水流量17,000m<sup>3</sup>/sと定め、上流洪水調整施設群により3,000m<sup>3</sup>/sを調節し、河道への配分は14,000m<sup>3</sup>/sとする現在の計画となった。

また、平成20年3月に仁淀川水系河川整備基本方針が策定され、上記の流量に対し、河道計画をすすめている。



仁淀川遠望

## 流量配分

● 伊野		太平洋 (土佐湾)
(17,000) 14,000		
波介川 900		● 波介川水門
単位:m <sup>3</sup> /s ( )基本高水流量		

## 計画諸元

区分	幹 川		支 川		
	仁 淀 川		波介川	日下川	宇治川
水源地及標高	愛媛県上浮穴郡久万高原町(石鎚山1,982m)				
流域面積	1,560km <sup>2</sup>	山地 1,508.3km <sup>2</sup> 平地 51.7km <sup>2</sup>	73.3km <sup>2</sup>	38.0km <sup>2</sup>	14.5km <sup>2</sup>
流路延長	124.0km		19.0km	11.7km	7.5km
氾濫面積	44.6km <sup>2</sup>				
かんがい面積	23.6km <sup>2</sup>				
大臣管理区間	15.43km(ダム区間10.55km)		2.23km	5.0km (放水路)	河沿 トシネカ 2.6km
計画高水流量	基準地点	基本高水流量 17,000m <sup>3</sup> /s 計画高水流量 14,000m <sup>3</sup> /s			
	伊野				●
計画流量 改定経過	伊野地点	基本高水流量 12,000m <sup>3</sup> /s S23年決定			
	〃	基本高水流量 13,500m <sup>3</sup> /s 計画高水流量 12,000m <sup>3</sup> /s			
	S41年決定	基本高水流量 17,000m <sup>3</sup> /s 計画高水流量 14,000m <sup>3</sup> /s			
	〃	基本高水流量 17,000m <sup>3</sup> /s 計画高水流量 14,000m <sup>3</sup> /s			

## 一般河川区域

河川名	地点名	計画高水流量	計画高水位	計画堤防高	摘要
仁 淀 川	伊 野	m <sup>3</sup> /s 14,000	T.P 20.26	T.P 22.26	杆標 12K/2 基 準 点
波 介 川	波 介 川 水 門	900	6.31	右岸堤 12.31 左岸堤 11.31	
支 川 宇 治 川	音 竹 橋	200	12.88	14.26	
	奥 名 橋	140	13.40	14.26	
	藤ヶ瀬橋	195	13.96	14.76	

## 高潮区間

河 川 名	区 間	地 点 名	計画高潮位	計画堤防高
仁 淀 川	0/0k~0/8k	河 口	T.P 2.46 (5.26)	T.P 10.26

※計画堤防高は、打ち上げ波高を含んでいる。  
※表示T.Pは新標高(2000年度平均成果)。旧標高への換算は、0.26m減算する。

## 仁淀川河川改修事業の経緯

昭和20年代まで	昭和18年4月、昭和20年9月、昭和21年7月等の洪水による大災害
昭和22年 8月	仁淀川直轄改修工事開始
昭和23年 9月	高知工事事務所に名称変更
昭和23年11月	建設省直轄河川改修事業に採択
昭和41年 4月	仁淀川水系一級河川に指定(仁淀川、波介川、直轄管理開始)
同年同月	仁淀川工事実施基本計画を策定
昭和48年 4月	宇治川直轄管理区間に編入
昭和50年 8月	台風5号により全川的に大被害(中島堤防浸水、用石堤防決壊等)
昭和51年 4月	激特事業開始
昭和57年 3月	激特事業完了(昭和54年度波介川、昭和55年度宇治川、昭和56年度日下川)
昭和57年 4月	日下川放水路直轄管理区間に編入
昭和61年 3月	宇治川上流河道付替改修工事完了
平成元年 3月	仁淀川水系工事実施基本計画改定
平成2年 3月	仁淀川水系工事実施基本計画部分改訂
平成7年 3月	宇治川床上浸水対策特別緊急事業に着手
平成13年 1月	国土交通省四国地方整備局、高知工事事業所に名称変更
平成13年 4月	宇治川床上浸水対策特別緊急事業を継続
平成15年 4月	高知河川国道事務所に名称変更
平成16年 3月	波介川河口潮流事業工事着工
平成19年 3月	宇治川床上浸水対策特別緊急事業完了
平成19年 4月	波介川床上浸水対策特別緊急事業に着手(平成24年3月完了予定)
平成20年 3月	仁淀川水系河川整備基本方針策定

## 仁淀川の主要な洪水

洪水年月	流量:m <sup>3</sup> /s(伊野地点)	被害等
昭和20年 9月洪水	(12,000)	高知県内死者不明者17名、床上2,024戸、床下425戸
昭和21年 7月洪水	(11,000)	いの町で流出家屋10数戸、床上浸水1,200戸
昭和38年 8月洪水	13,500	浸水面積2,187ha
昭和46年 8月洪水	9,500	いの町枝川他で浸水
昭和50年 8月洪水	13,500	浸水面積2,274ha、床上3,446戸、床下2,263戸
昭和51年 9月洪水	7,900	浸水面積1,824ha、床上1,080戸、床下887戸
昭和57年 8月洪水	8,900	浸水面積724ha、被害家屋350戸
平成5年 8月洪水	9,000	高知県全域で床上7戸、床下27戸
平成9年 9月洪水	9,300	浸水面積350ha
平成11年 7月洪水	7,700	浸水面積410ha、床上12戸、床下142戸
平成16年10月洪水	9,600	浸水面積115ha、床上81戸、床下226戸
平成17年 6月洪水	11,000	浸水面積649ha、床上42戸、床下92戸
平成19年 7月洪水	9,900	浸水面積583ha、床上14戸、床下52戸

流量の( )は推定値